

すべての子どもたちのための教育とは

熊平 美香

『リフレクション』と『対話』を日本の当たり前に!



昭和女子大学キャリアカレッジ 学院長
青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科
国際マネジメント専攻 特任教授
クマヒラセキュリティ財団 代表理事
一般社団法人21世紀学び研究所 代表理事

熊平 美香

MISSION
ミッション

ニッポンの「学ぶ力」を変えていく。

VISION
ビジョン

リフレクションとダイアローグを活かし、
人のチカラと組織の創造性を解き放つ

<https://learning-21.org/>

21世紀学び研究所



- ハーバード大学経営大学院MBA取得
- ファミリー企業の変革推進
- 藤田田に弟子入り、新規事業の構築
- 学習する組織の普及啓発
- 昭和女子大学キャリアカレッジを創設し、ダイバー シティの推進
- 21世紀学び研究所を設立し、「リフレクション」と「対話」の普及啓発
- 経済産業省「人生100年時代の社会人基礎力」にリフレクションを提案・採択
- 文部科学省中央教育審議会委員、経済産業省未来の教室と
E d T e c h 研究会委員等を歴任
- NHK Eテレ教育番組「プロのプロセス」でリフレクションを紹介
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005180418_00000



- 幼小接続
- 不登校
- 多様性の包摂
- 最後に

幼小接続

小学1年生が直面する6つの変化

1. 頂点から底辺への移行



2. 時間割のある生活

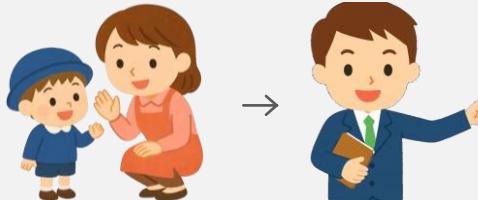


3. 机に向かって勉強

4. 興味関心ではなく教科書が起点



5. 先生との関係 生活から授業へ



6. お友達と交流する時間 減少

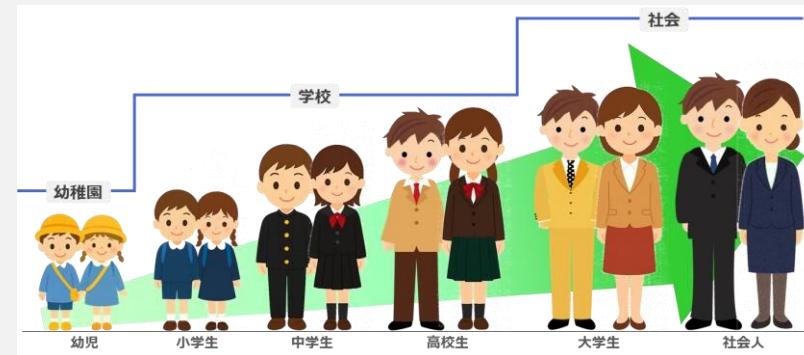
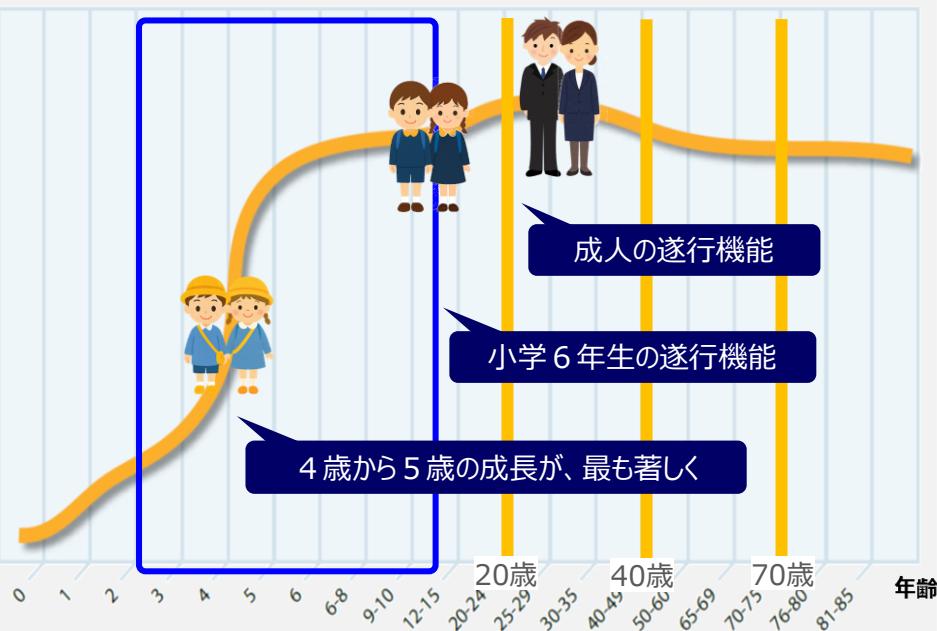


子どもの発達

人間の脳は、生まれてから5年間、最も早く、最も著しく成長する。この期間に、「遂行機能」と「自制心」を発達させることができ、生涯にわたるウェルビーイング(幸福)につながると考えられている。

〔幼児期に発達する遂行能力〕

遂行機能に関する技能の習熟度



※Harvard University Center on the Developing Child (ハーバード大学子ども発達センター)

養育環境や個々の特性に起因する発達の遅れのある子どもに対しては、幼児期から学齢期への円滑な移行を見据え、幼小が連携して発達を支える仕組みが必要である。

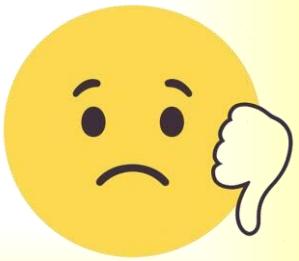
小学生になる準備

真の民主性は対立に基づく

賛成

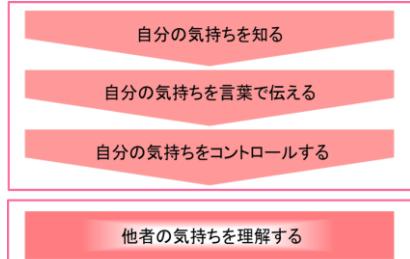


反対



意見が違っても友達でいてよい！！

感情を扱う・怒りを鎮める



いかりくるう

はげしくおこる

おこる

カチンとくる

いらいらする

ふまんがある

意見・気持ち×理由を伝え、聴き合う

○○が好き。
なぜなら…。

うれしい気持ち。
なぜなら…。



3つの帽子とステッププラン

ケンカする



ステップ1 「いやだ、やめて」とつたえる



話し合いで
解決する



ステップ2 おちつこう



ステップ3 よいかいけつさくをかんがえる



我慢する



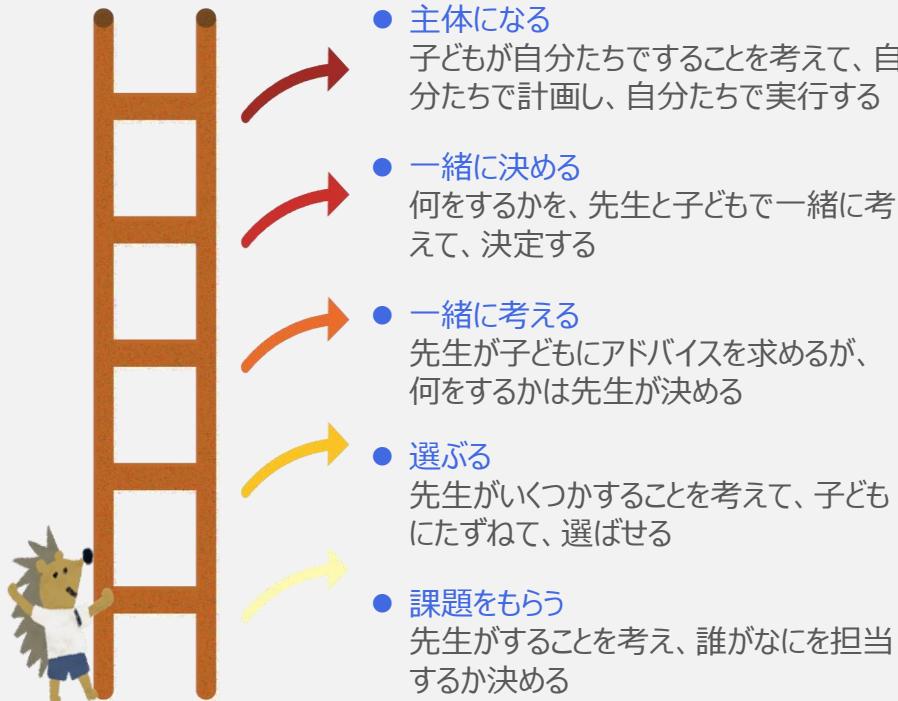
ステップ4 なかなおりをする



子どもの主体性 小学生・幼児の『参加の階段』

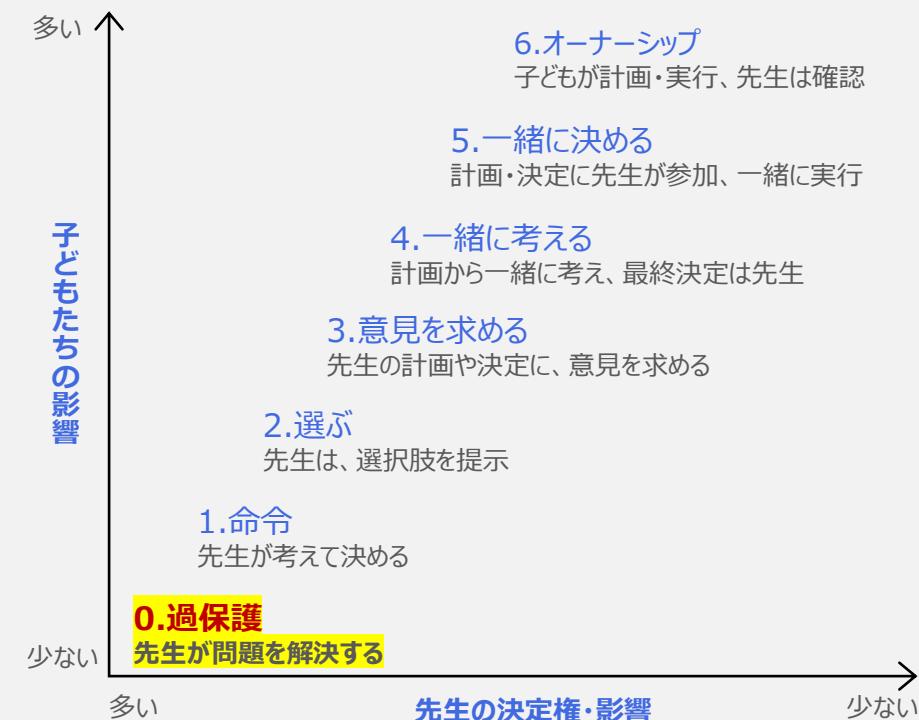
子どもたちの「参加の階段」

「参加の階段」というレッスンでは、参加には階段があることを学ぶ。先生は、日常の生活の中で、参加の階段を示し、子どもたちが主体性を育む機会を設ける。



先生の役割

参加の階段を前提に持ち、活動ごとに、子どもたちにどこまでのオーナーシップを与えるのかを考えて、子どもたちに問い合わせ、話し合いを促す。



2025年8月、北海道・湧別町、秋山訓子撮影

日本でも広がるオランダ流教育 5歳から「違い」を学ぶ自主的に行動を始める子ども



湧別町にある町立認定こども園で、レッスンを受ける子どもたち



レッスンは、お互いの表情が見えるように円の形に座って行う

<https://globe.asahi.com/article/16182728>

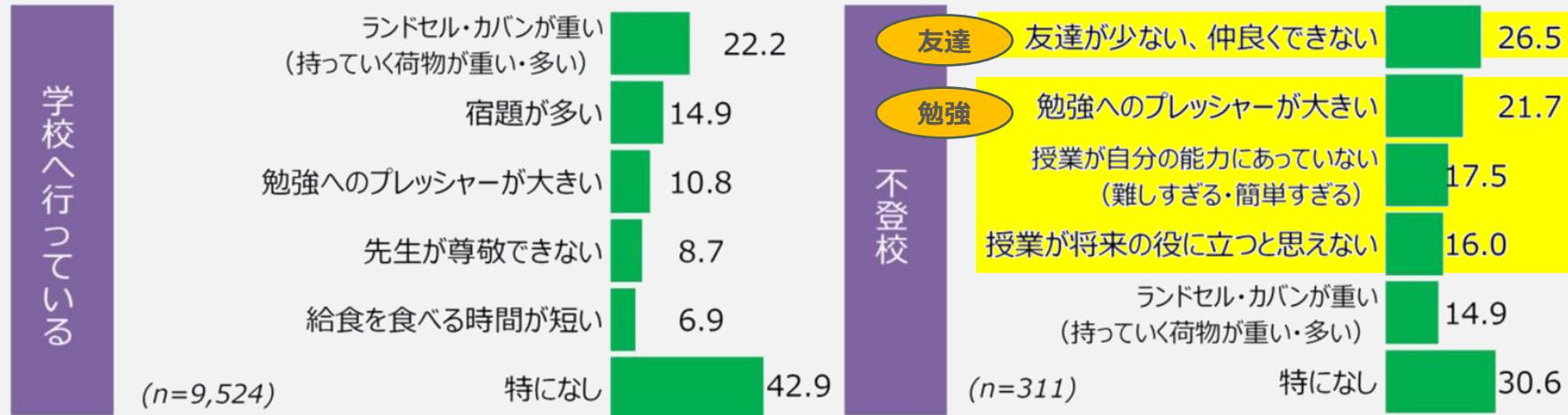
不登校

不登校の子どもたちの声

不登校の子どもたちの声

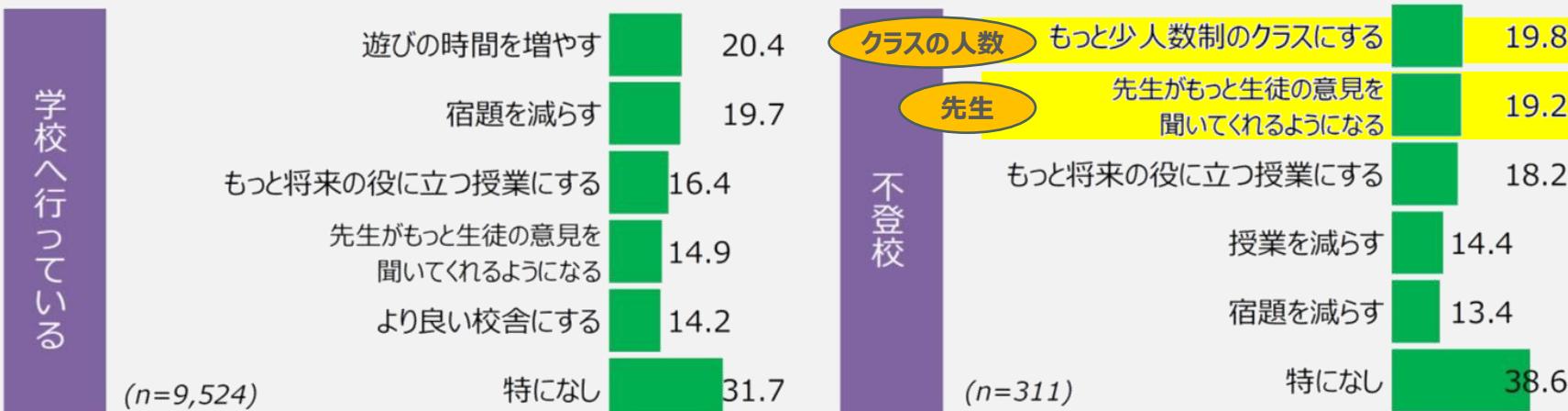
不登校の子ども：学校で不安・不満に感じる点

本設問も既出であるが、学校に行っている子どもと不登校の子どもの回答を比較した結果として、不安・不満点に差異がみられた。



不登校の子ども：学校についてもっとこうなったらいいなと思うこと

本設問も既出だが、不登校の子どもは（学校に行っている子どもと比較すると）少人数教育を望む声が多い結果が示された。



不登校の子どもたちの声

不登校の子ども：教育を受けるために希望する制度やサポート

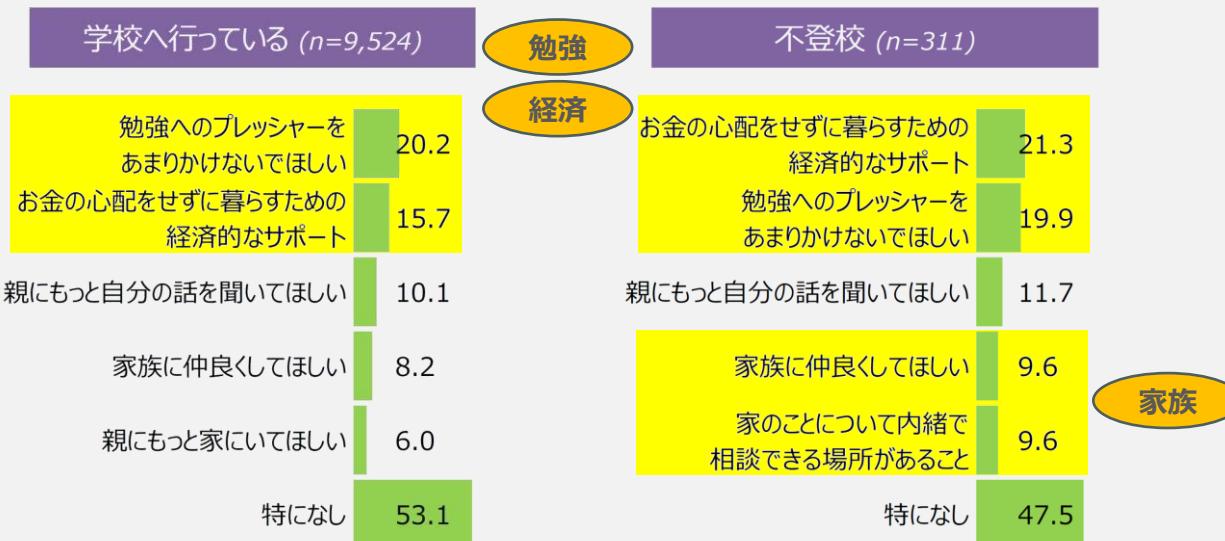
不登校の子どもに教育を受けるために希望する制度・サポート等を尋ねた結果は以下の通り。なお、内訳として「30日以上休んでいる」と「ほとんど・全く行っていない」という不登校の状況別の結果をみると、その状況によっても希望に差があることがわかる。

	n=	オンライン	小人数	メンタルサポート	無料のフリースクール、サポート校などがある	自分に適した学校を教えてくれるサポート
不登校（合計）	311	36.7%	28.4%	27.4%	26.2%	19.5%
内、「30日以上休んでいる」	174	41.4%	33.7%	28.8%	22.9%	20.6%
内、「ほとんど・まったく行っていない」	138	30.7%	21.8%	25.6%	30.3%	18.2%

Q.教育を受けるために、あなたの希望する制度や、受けたいサポートはありますか？【複数回答】※上位5位を掲載

家庭でこうなつたらいいなと思うこと、また、あつたらいいと思うサポート

※上位5位、及び「特なし」を掲載



友だちと共に生きる基礎力

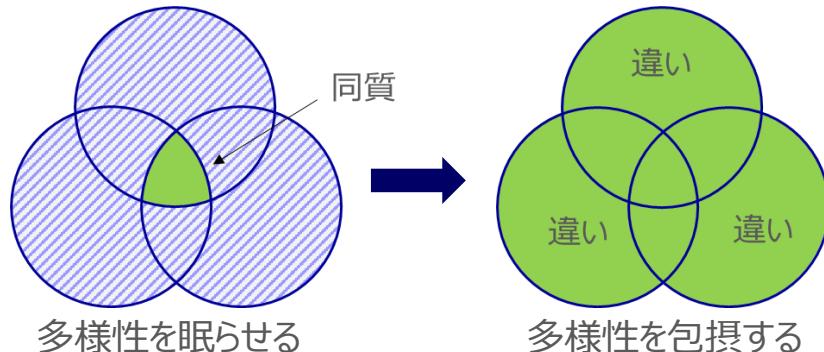
心地よく一緒に過ごすために

心理的安全性

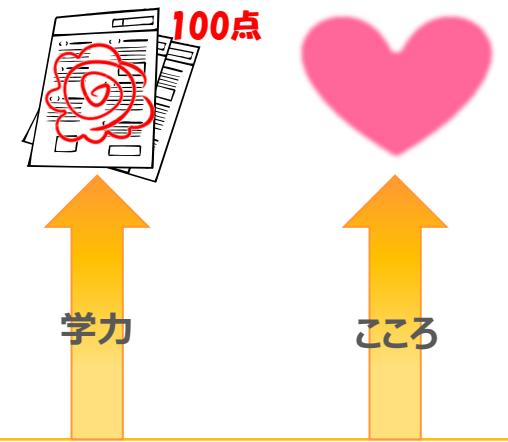
- 周囲の人に対して、素の自分を見せることを自分自身が受け入れられる状態。
- 素の自分を見せてても、周囲の人を受け入れてもらえる安心感。

多様性の包摂

- お互いを尊重し合い、みんなが参加し、力を発揮できる。



心の教育が鍵



感情を聴き合う

友だちの気持ちを評価しない オランダの小学校6年生の事例

- 「僕は、小学校卒業試験という1回の試験で、進路が決まってしまうと思うと、ドキドキして不安な気持ちなんだ」
- 「ふ~ん。そうなの。私にはその気持ちないみたい。もっとどんな感じなのか教えて」



多様性の包摶

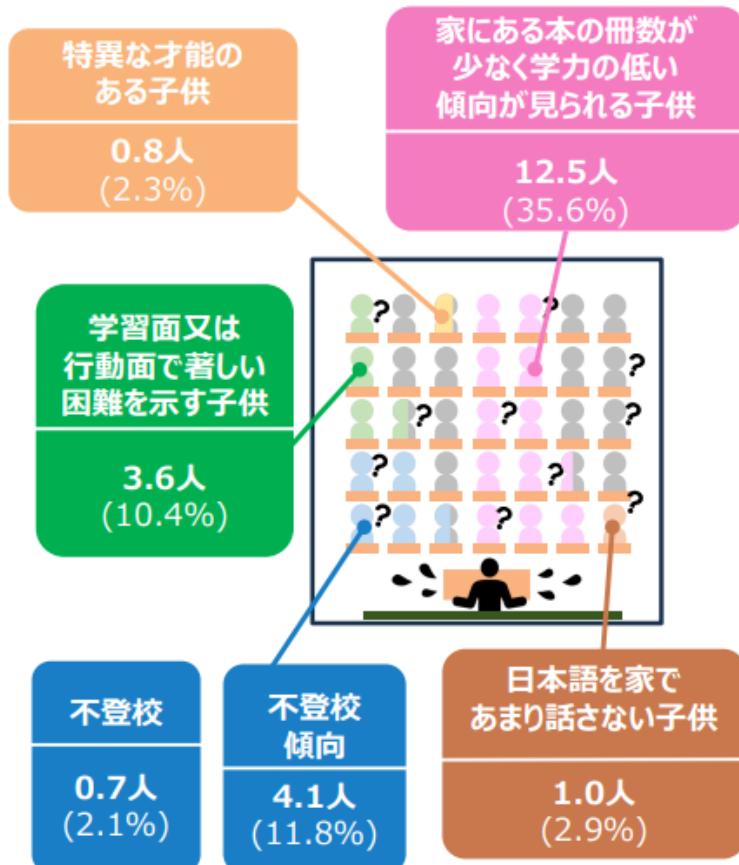
授業と学ぶ意欲

授業が自分の能力に合っていない

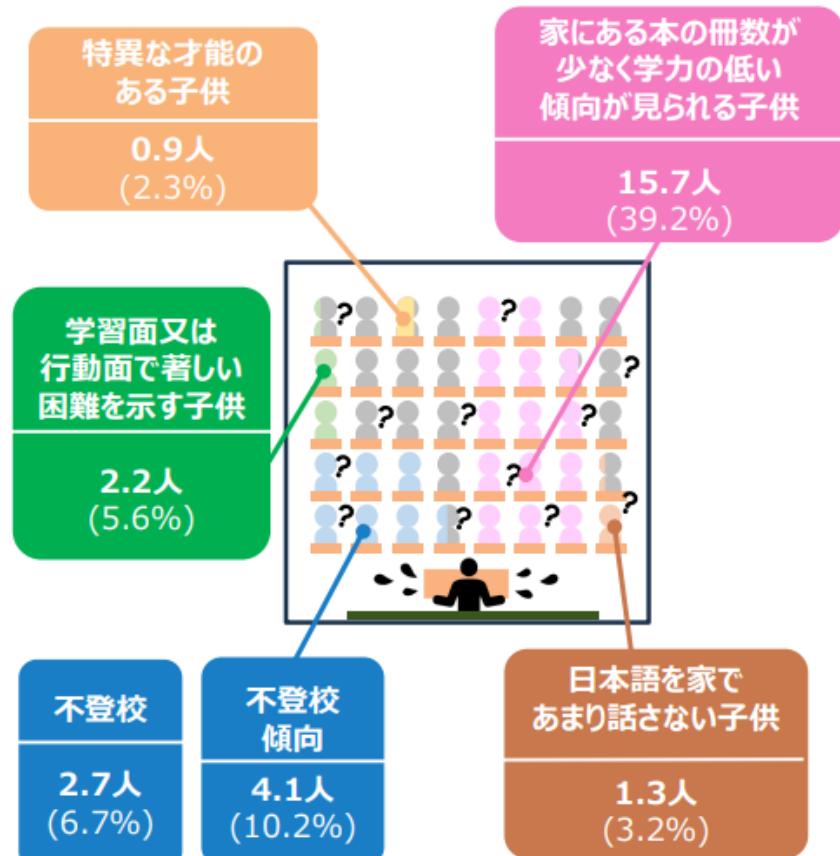
学校における児童生徒の多様性を包摂する必要性

○どの学校においても、多様な個性や特性を有する子供が在籍している実態が顕在化している。
こうした多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題。

小学校（35人学級）



中学校（40人学級）



※各数字の出典は諮問参考資料P45,46参照
https://www.mext.go.jp/content/20242127-mext_kyoiku01-000039494_03.pdf

赤ちゃん・幼児・小学生の学ぶ意欲

“すごい”
学びが
未来を
つくる

どんな“すごい”が未来をつくる？

あふれる好奇心
興味関心が学びへ



気づきからの「なんで？」
見通しから動き出しへ



夢中・集中・没頭
試行錯誤が成長へ



広まる触れ合い 深まる関係
“みんな”でよい社会づくりへ



柔軟で豊かな発想
想像力が創造力へ



「できた！」からの向上心
自己肯定感から得意へ



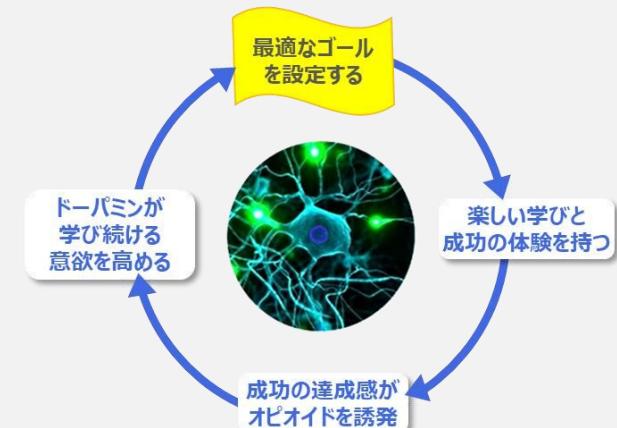
出典：静岡市教育委員会 議論進行中の資料

赤ちゃんの学ぶ意欲



Lectica VCoL+7—the Virtuous Cycle of Learning
<https://www.youtube.com/watch?v=NldG2M1rynU>

学ぶ意欲の法則



出典：レクティカ研究所

平等から公平へ

【学校】



毎年、こういう子はいる。
卒業できることを願う。



本当は勉強ができるようになりたい。



九九、割り算ができない
中学生

【寺子屋】

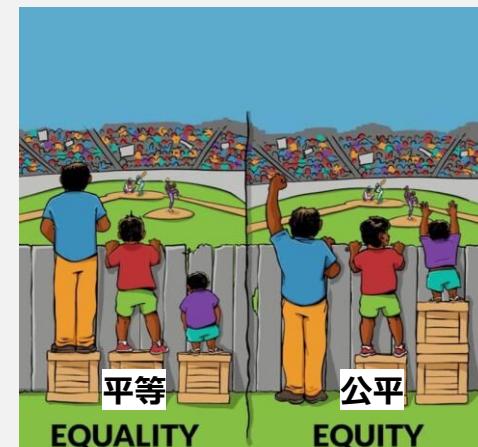


15分 勉強できたらすごいことだから。あまり無理せずに。



9年間の
学校生活が
人生に与える
影響

公平とは、子どもの置かれている状況や特性、必要性の違いを踏まえ、それぞれが**同じスタートラインや機会に近づける**よう、支援や配慮を調整すること。



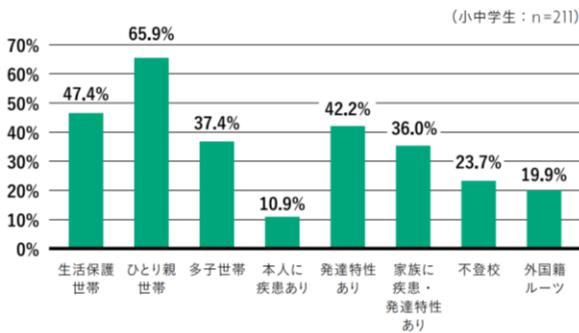
https://scrapbox.io/nishio/Equality_v.s._Equity

多様で複雑な子どもの実態を前提に

多様で複雑な子どもの実態

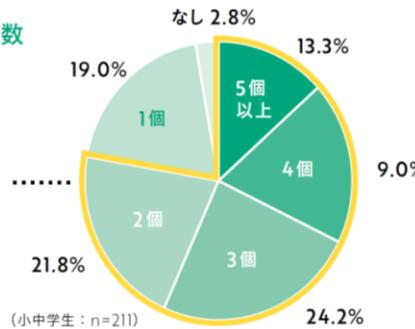
子どもたちが直面している困難

LFAの支援に繋がった子どもの属性



LFAの支援に繋がる子どもたちの多くが、経済的な困窮に限らず、さまざまな不利・困難が重なった状態で生活しています。

1人あたりの属性の数



約8割の子どもが1人あたり2個以上の属性（課題）を持っている。

日本の子どもは9人に1人（11.5%）が貧困状態にある。また、子どもたちが直面している困難は、決して「経済的な困窮」だけではない。

団体名 認定NPO法人Learning for All
(ラーニングフォーオール)

活動開始 2010年6月(当団体は2014年7月23日設立)

従業員数 職員58名、業務委託28名、インターン39名
(※2024年3月末時点)

- **政策提言**：子ども家庭庁 子どもの居場所部会委員
- **尼崎おなかまプロジェクト**：尼崎市の子ども支援に携わる行政と民間団体が共通の研修を実施。年間5回の研修に約120名が参加。
- **つくば市職員向け研修プロジェクト**：つくば市のケースワーカーやソーシャルワーカーを対象に、スキルアップと連携強化を目的とした研修を実施。全5回の研修に61名が参加。

2024年度LFA直営提供サービス数

都・県	市・区	拠点数
東京都	葛飾区	13
	板橋区	4
	世田谷区 (NEW)	5
埼玉県	戸田市	3
茨城県	つくば市	2
兵庫県	尼崎市	2



居場所づくり



学習支援



食事支援



訪問支援



保護者支援

多様で複雑な子どもの実態 4人の子どものストーリー

多様で複雑な子どもの実態に合わせて、子どもの育ちを支援するために、学校は、家庭や地域と連携していく必要がある。



Aさん (小学3年生)

生活保護

6人兄弟

ネグレクトの疑い

学力不振

両親とも病気で働けない

両親の体調不良で欠食が多々あり

スクールソーシャルワーカーの紹介で子ども食堂に通う



Bさん (小学4年生)

母子世帯

1年前来日

日本語習得の遅れ

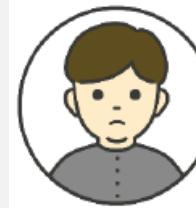
深夜徘徊

意思疎通が難しく学校で“困った子”的レッテルが張られている

母親の長時間労働

母親は日本の学校事情がわからない

地域の方や主任児童委員は心配している



Cさん (中学3年生)

母子世帯

生活保護

学力不振

母の精神疾患・体調不良

ヤングケアラー

発達障害の疑い

進路・学習状況を相談する先がない

不登校経験あり



Dさん (16歳)

母子世帯

就学援助

母の長時間労働

母の代わりに家事・育児

学校でのいじめのトラウマ

不登校経験

高校1年で中退

進路の相談相手がない

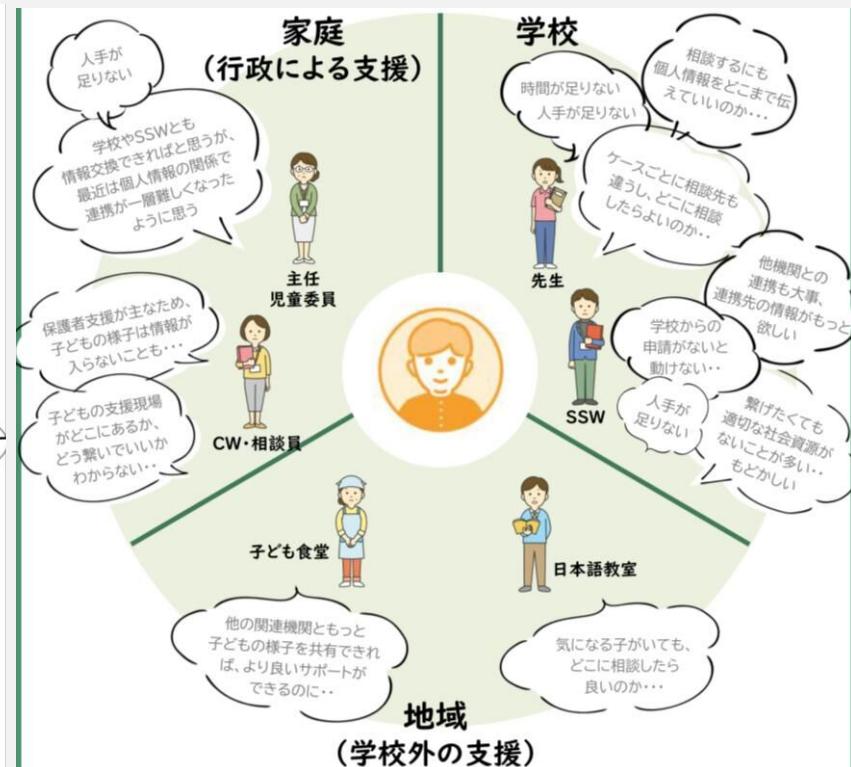
子どもを支える大人たちが直面する困難

「子どもたちを支える大人」もまたそれぞれの立場で課題を抱えており、「子どもたちの声」を起点とした必要な支援を、全ての子どもたちに届けることが困難になっている。

支援体制



直面する課題



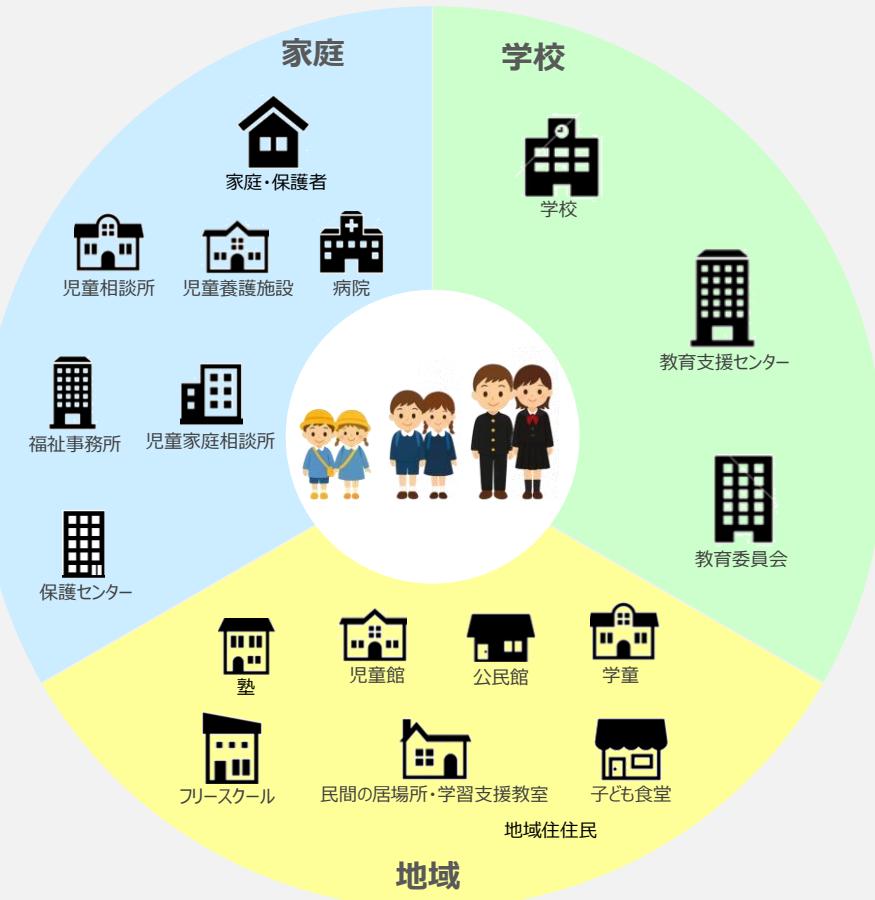
異なる立場で子どもたちに関わる支援者が、いかにタイムリーに協力・連携し、子どもの現状を把握し、必要な支援を行えるか、そのために何が必要かを検討する必要がある。

Learning for All 2024年度年次報告書

最後に

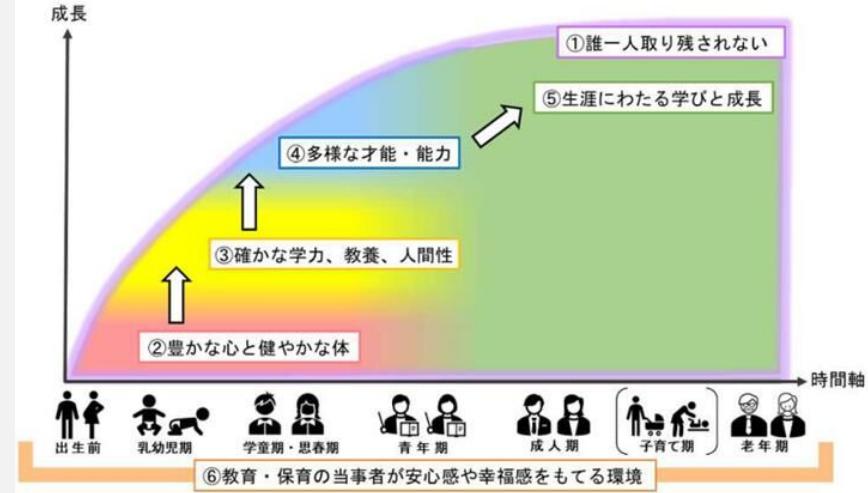
地域・家庭・学校の協力体制

こどもまんなか



静岡市教育大綱

【基本方針と人生の各段階との関係性】

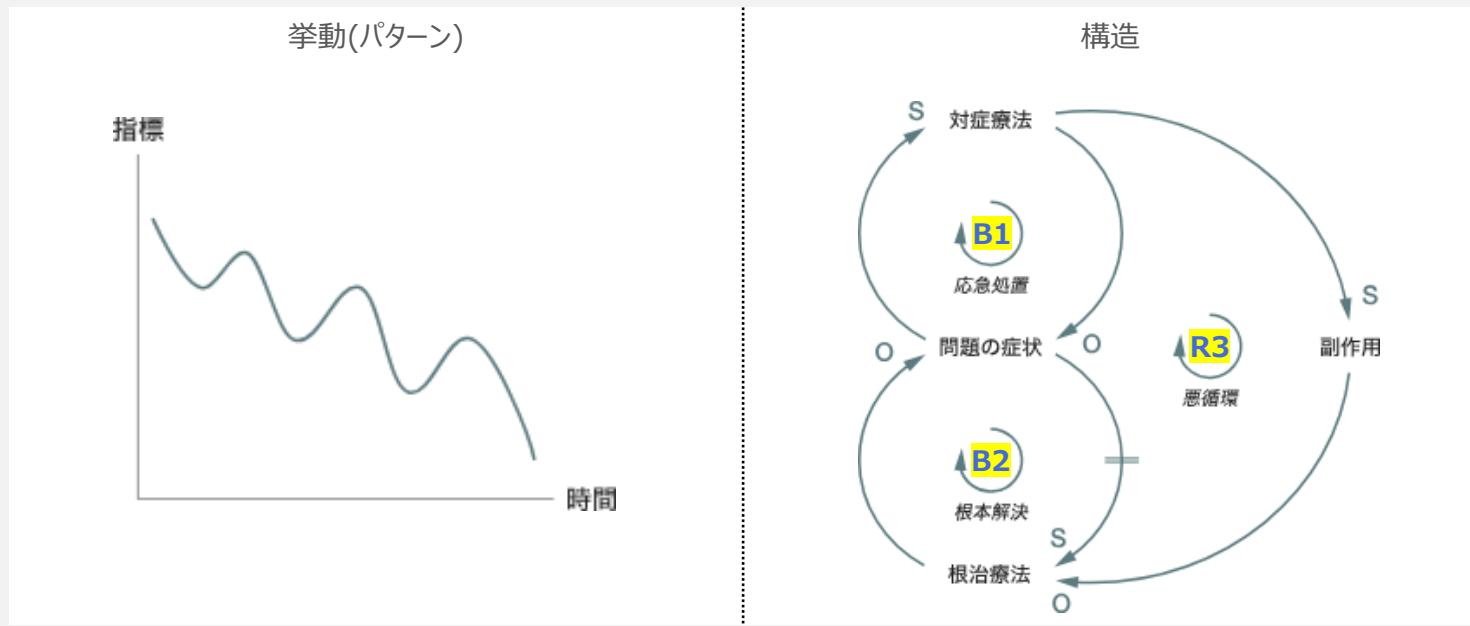


“すごい”学びが未来をつくる



【参考】対処療法の課題

システム原型 問題のすり替わり



【B1:応急処置ループ】問題が発生しているとき、その問題の症状への対症療法で症状を緩和する。

【B2 : 根本解決ループの右側】その一方で、問題の根本原因を取り除くような根治療法は、しばしばリソース、時間、難易度などの理由で実施することが難しく、二本線を引いているつながりはなかなか進まない。

【R3 : 悪循環ループ】その一方で、対症療法の副作用が根治療法の実施を妨げ、しばしば根治療法の実施の基盤となる能力や体制を損なわせる。その結果、問題の根本原因は放置されるので再び問題の症状が発生します。そうすると、過去「うまくいった」と認識している対症療法を再び取ってしまい、その副作用が根治療法を妨げる悪循環が繰り返し回る。